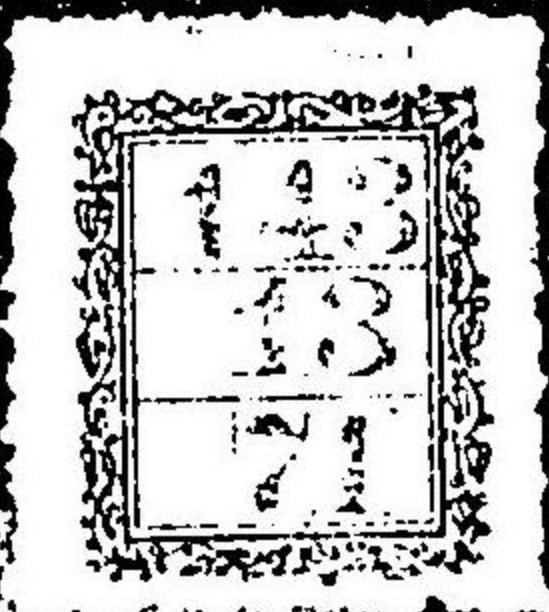


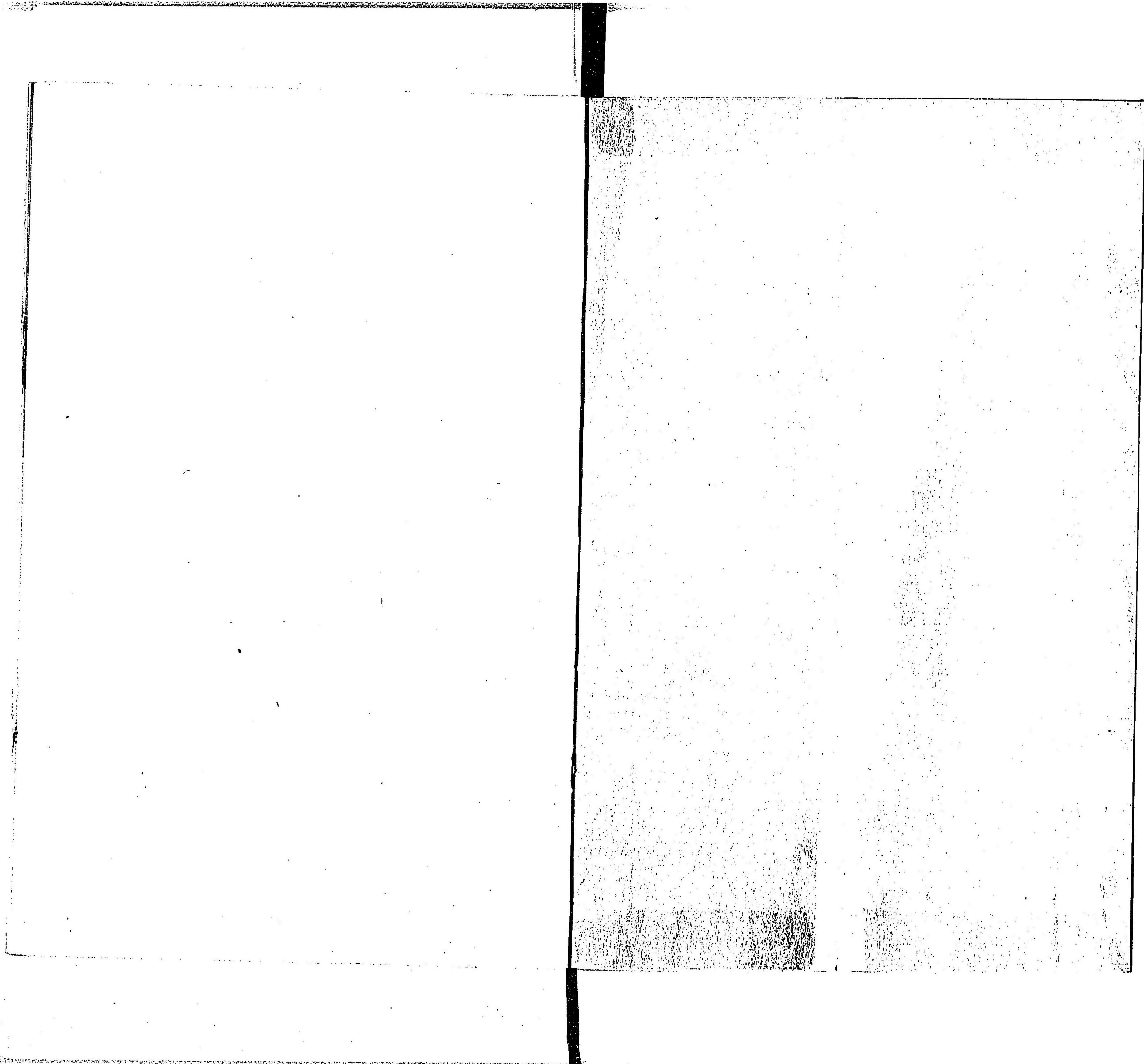
知世流
福本外六十二番田



憲書行
驚
月

正

東 京 圖 書 館				
一 三 冊	一 五 號	五 五 架	一 四 三 函	和 書 門



徳川里村

白菊

花は白く院にはもたれ下あり。

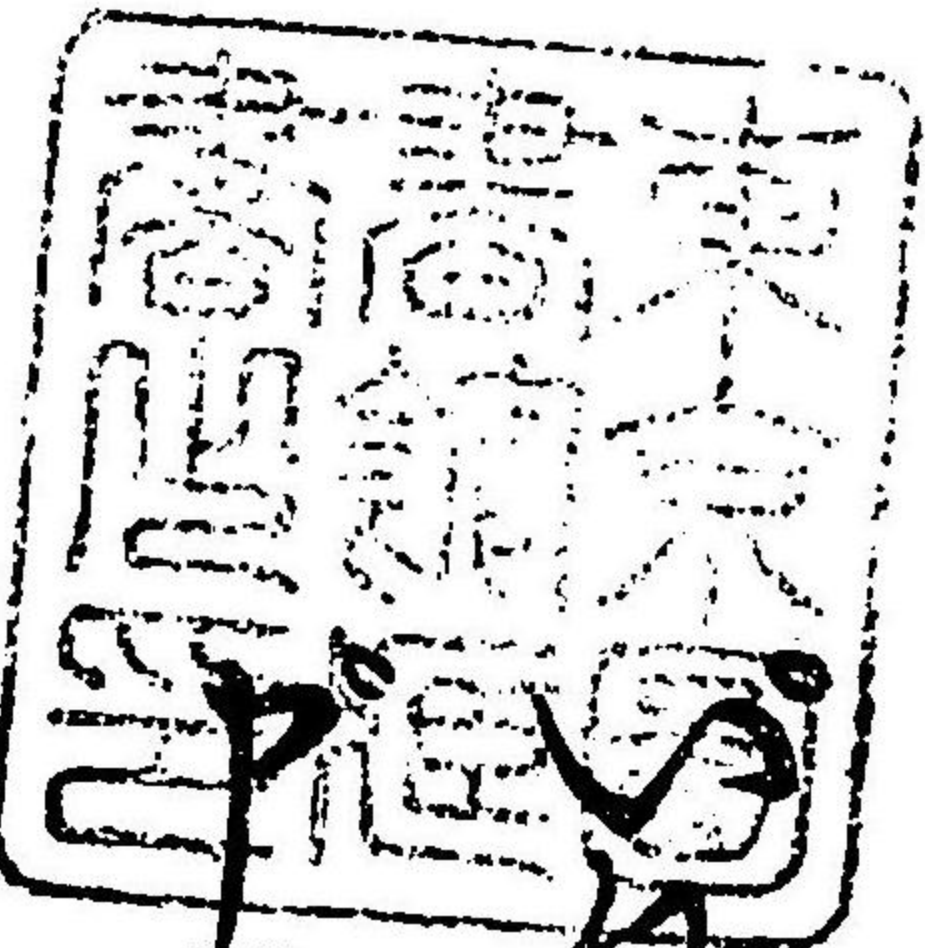
徳川親王菊と御寵を有て毎日

あましの菊は植えてもよく又

家より料の庄司として接する者の作

は花も菊の下はあまの世に花はあま

中付と存作。又あまの世に花はあま



徳川里村

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

成りしやうの事の中身は清く整つて居る

۱۱
 ۱۲
 ۱۳
 ۱۴
 ۱۵
 ۱۶
 ۱۷
 ۱۸
 ۱۹
 ۲۰
 ۲۱
 ۲۲
 ۲۳
 ۲۴
 ۲۵
 ۲۶
 ۲۷
 ۲۸
 ۲۹
 ۳۰
 ۳۱
 ۳۲
 ۳۳
 ۳۴
 ۳۵
 ۳۶
 ۳۷
 ۳۸
 ۳۹
 ۴۰
 ۴۱
 ۴۲
 ۴۳
 ۴۴
 ۴۵
 ۴۶
 ۴۷
 ۴۸
 ۴۹
 ۵۰
 ۵۱
 ۵۲
 ۵۳
 ۵۴
 ۵۵
 ۵۶
 ۵۷
 ۵۸
 ۵۹
 ۶۰
 ۶۱
 ۶۲
 ۶۳
 ۶۴
 ۶۵
 ۶۶
 ۶۷
 ۶۸
 ۶۹
 ۷۰
 ۷۱
 ۷۲
 ۷۳
 ۷۴
 ۷۵
 ۷۶
 ۷۷
 ۷۸
 ۷۹
 ۸۰
 ۸۱
 ۸۲
 ۸۳
 ۸۴
 ۸۵
 ۸۶
 ۸۷
 ۸۸
 ۸۹
 ۹۰
 ۹۱
 ۹۲
 ۹۳
 ۹۴
 ۹۵
 ۹۶
 ۹۷
 ۹۸
 ۹۹
 ۱۰۰

۱
 ۲
 ۳
 ۴
 ۵
 ۶
 ۷
 ۸
 ۹
 ۱۰
 ۱۱
 ۱۲
 ۱۳
 ۱۴
 ۱۵
 ۱۶
 ۱۷
 ۱۸
 ۱۹
 ۲۰
 ۲۱
 ۲۲
 ۲۳
 ۲۴
 ۲۵
 ۲۶
 ۲۷
 ۲۸
 ۲۹
 ۳۰
 ۳۱
 ۳۲
 ۳۳
 ۳۴
 ۳۵
 ۳۶
 ۳۷
 ۳۸
 ۳۹
 ۴۰
 ۴۱
 ۴۲
 ۴۳
 ۴۴
 ۴۵
 ۴۶
 ۴۷
 ۴۸
 ۴۹
 ۵۰
 ۵۱
 ۵۲
 ۵۳
 ۵۴
 ۵۵
 ۵۶
 ۵۷
 ۵۸
 ۵۹
 ۶۰
 ۶۱
 ۶۲
 ۶۳
 ۶۴
 ۶۵
 ۶۶
 ۶۷
 ۶۸
 ۶۹
 ۷۰
 ۷۱
 ۷۲
 ۷۳
 ۷۴
 ۷۵
 ۷۶
 ۷۷
 ۷۸
 ۷۹
 ۸۰
 ۸۱
 ۸۲
 ۸۳
 ۸۴
 ۸۵
 ۸۶
 ۸۷
 ۸۸
 ۸۹
 ۹۰
 ۹۱
 ۹۲
 ۹۳
 ۹۴
 ۹۵
 ۹۶
 ۹۷
 ۹۸
 ۹۹
 ۱۰۰

۱۰۰

如様にお尋ねの事、お返事申し上げます。後
よ詰り申す由、お尋ねの事、お返事申し上げます。
お尋ねの事、お返事申し上げます。お尋ねの事、
お返事申し上げます。お尋ねの事、お返事申し上げます。
お尋ねの事、お返事申し上げます。お尋ねの事、
お返事申し上げます。お尋ねの事、お返事申し上げます。

我々、お尋ねの事、お返事申し上げます。お尋ねの事、
お返事申し上げます。お尋ねの事、お返事申し上げます。
お尋ねの事、お返事申し上げます。お尋ねの事、
お返事申し上げます。お尋ねの事、お返事申し上げます。
お尋ねの事、お返事申し上げます。お尋ねの事、
お返事申し上げます。お尋ねの事、お返事申し上げます。
お尋ねの事、お返事申し上げます。お尋ねの事、
お返事申し上げます。お尋ねの事、お返事申し上げます。

子... 念無...
 烟... 城...
 名... 我...
 我... 我...
 我... 我...

元... 港...
 持... 社...
 地... 地...
 思... 思...
 路... 路...

心ごとくあつての程にたゞよふ下よ

尤年乃昔きよの必りかへりておのゝこ

内乙卯の徳の下ゆへに安んずるの書よ

下方のあつての書よ

橋乃夜きよ日も清くくぐりて又言

乃言まふらん書よと教るうの程あり

くはらむ程にゆへに声屋の屋よ

コトハニニカ

まわく。急な程よ昔人屋の屋よ

松く葉内と申らるる書よ

巾入の部うの文書う書よ

又驚きかぬ余りきよの思ふ

悲にひほくの程よ

う社并るまゝの深き味持ぬ中同

一昔のたゞの草。秋の長巻行を

若くも遠くより萬里の外へ

頼むは寝よ。故郷の礎のえり世

も思ひて封じし中たるは

くくさくさやうの夜に礎より

も思ひて封じし中たるは

あはき賤しは若くさくさく

たかきつる海に数りたはあはき

礎よ

行はくは思ひて封じし中たるは

の海よ

思ひて封じし中たるは

も思ひて封じし中たるは

も思ひて封じし中たるは

おちてわのこもあはき

上北 五ノ音をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

上北 秋風をひ。す。新なる中ノ秋風

六 幽霊まらばあやうき
三 切なる見も思入を御
三 堪乃色しゆらびくる
三 喜提の物と切よま
三 三

驚

一 五才
久のれけ者都乃あ
も君の惠うれし
志れ。萬世の政
四季物とれ
秋の時雨れ紅

ささきくばつてあつたかあへなげむ
 あつてまうまうまうまう行てあき
 よまけ勅使も勅使そよまうま
 かれれげ地まうまうまうま
 海り羽まうまうまうまうま
 龍教よけまうまうまうま位者
 惠有罪や教もまうまうまう人感

志まうまうまうまうまうま
 たまうまうまうまうまうま
 教もまうまうまうまうま
 海りくまあまうまうまうま
 酒まうまうまうまうまうま
 面もまうまうまうまうま
 威もまうまうまうまうま

位ニテ上の元路ノ子ノ跡ノをニテたニテまニテよニテやノ例ノ時ノ
 の元鷲ノの元羽ノとノたニテまニテくノ 地ねニテさニテあニテおノ
 ぶノ丸ノ又ノうノ那ノ サ實ノ手ノあニテくノさニテらニテ君ノ切ノのノくノ
 西ノ海ノへノさニテまニテねノはニテさニテまニテくノ靡ノのノ怒ノ
 方ノさニテあニテらニテのノまニテまニテくノまニテうノてノ鳥ノ敷ノ音ノ敷ノ
 ちノのノ後ノのノ恩ノ徳ノのノれノぬノ所ノをノてノらニテよノ
 くノさニテらニテよノけノ鷲ノのノ神ノ妙ノくノさニテらニテまニテくノやノおノ

ちノのノ心ノをノいノくノ實ノをノいノくノたニテらニテんノとノ見ノ入ノ
 うノさニテあニテらニテのノまニテまニテくノとノ合ノめノてノたノ
 あニテまニテらニテのノ鷲ノのノ心ノをノいノくノさニテらニテまニテくノあニテらニテのノ心ノ
 うノさニテあニテらニテのノまニテまニテくノあニテらニテのノ心ノをノいノくノ
 まニテをノいノくノまニテまニテくノ

全月

^亭 和振子依者ハ西江國守山ハ宿
 甲屋乃亭子主に云く人。和も某亭
 國ハ信濃國の者云くハ。云々云々
 云く山甲屋ハ亭子主と云あり。和某
 乃和人を云く。和云く。身命をつま
 依。今日を和人乃和通りの人ハ

215

御宿をりしとるも存候 渡乃
浮舟をむねごとく志すやきう
ぬ心外 是ハ信濃の里に佳人
あ田代店司友治乃素や子にきく
相も素れ友治ハ同里乃佳人を月
乃秋長よあ人なく討て給ひ
多かりし徒類を教ふあり 転

むこうをもち松子の花若独りし置
そと敵乃可縁に思へさにはたひ
子と誘ひ立ゆれ 行國在定ぬ
ぬ核を信濃路や月をとり糸乃
夢ハ多し 名跡を思ふ古里に
浅間乃煙立まふ草れ枕乃我
さむ成核麻の床乃し 泪守山

人ノ申入るるれハ信濃ノ國ヨリ
と信不付くいふ人御目ニ
たさやうに有^ナいハ是ハ行儀モ
あし者少くハ程子思ひもようぬ
るふと候^ナ行を御儀を候そ
先基必承て^ナ事をし^ナ是社
在^ナ御内ニ在^ナ住^ナ道^ナ多^ナい^ナ小^ナ沢^ナ乃

刑部定房少^ナ久^ナ 極^ナい^ナ乃^ナ
小^ナ沢^ナの^ナ刑^ナア^ナ定^ナ房^ナノ^ナ荒^ナ安^ナ乃^ナヤ^ナ
斗^ナ心^ナく^ナ涙^ナ心^ナむ^ナ世^ナふ^ナも^ナあ^ナり^ナな^ナり^ナ
父^ナ子^ナあ^ナひ^ナさ^ナる^ナ心^ナ地^ナ考^ナく^ナ親^ナ若^ナ小^ナ沢^ナ
小^ナ沢^ナ乃^ナ 別^ナき^ナ一^ナ主^ナ君^ナ乃^ナ面^ナ敷^ナ
乃^ナ孫^ナも^ナ今^ナハ^ナ恨^ナり^ナや^ナこ^ナの^ナも^ナ
更^ナの^ナ現^ナり^ナ也^ナ至^ナ從^ナ手^ナに^ナ平^ナを^ナ免^ナり^ナ

今迄入行漢も多しぬまひ人乃
三ノ世に幾々の皇後と載む情
も是れを力なき人あり
我亦印く
我亦印く

入あつて御体も有る
海と橋くは古くは唯
核と思ふん
是の信濃乃

國に任人年月の行某少くは極も
同國の任人安田乃法司友治と申者
を某う手小を坐害とせしむる
より、十三年の間在京仕候家より
是を緩急あり申方台ひくか
米堵乃御教書を送り候日乃色
を形く只今奉國信濃より下向仕

此方(以)通(り)是(レ)言(語)道(断)の(り)
 我(輕)中(て)公(人)の(以)出(方)同(一)を(御)子
 息(記)新(殿)此(屋)より(免)り(て)は(敷)ま
 花(且)う(殿)御(親)乃(歎)望(月)の(泊)り(て)は
 事(ハ)依(り)た(り)由(ト)よ(と)わ(と)存(ん
 だ(い)ふ(ト)は(婦)人(の)事(ハ)依(り
 今(我)に(妻)より(望)月(の)意(を)て(レ)何(子)

望(月)と(中)の(誓)あ(ま)り(追)く(ん
 先(志)の(あ)つ(て)乃(古)き(人)の(只)今
 中(如)く(望)月(の)此(屋)の(泊)り(と)依(り
 是(ハ)天(乃)あ(く)ふ(於)可(と)存(り)め(中
 心(を)盡(し)今(我)の(中)に(御)奉(望)た
 じ(せ)は(女)の(あ)ら(ま)り(と)く(ん)御(心
 安(く)思(は)る(と)は(人)の(意)を(察)仕(ま)さ(る)

五月

六

車に今頃世宿よとやう作おの
免うくくせめくく行の苦くく
夜よまよき枝よま前り。若若度よ
御手よじりきくせぬ目うく振
舞ふく座おの出く某彼者
又酒よまき免くく又行めを
は御痛ひあきとくわうくを

御うまひく若若度ハハを御
うらあふまきく某ハ柳子
舞よまあひまぬまふ地付
て。中まよとてまわくまを
免も角もま紀板よま
舞ひて踊りく行の苦く某
は紅せく舞もあまきく

叶ふよや首乃姿よ出立ていあ
をぬ業を父乃為 竹乃細杖つ
まはせと 彼蟬丸れ古へくた
又たもをも遠近乃道の邊に
迷ひも今の才れよも思ひいそ
をさる人まかほりま才れ業な
盲目乃姿のあはれいさのあせ様人

よく ^{カニ} けり ^{カニ} けり ^{カニ} けり ^{カニ} けり

あていそ ^{カニ} 此屋乃亭まよしく候り

目出度御下向しく人間水祝の為よ

酒を物をそくしありて人慈し人言根よ

申ひ人 ^{カニ} 心けり候いふ ^{カニ} 申ひ

屋乃亭まよ下向目出なる由 ^{カニ} 申ひ

御指を物をそく ^{カニ} 申ひ ^{カニ} 申ひ

かしらさうしたる。爰に徳ひ入
子いかく思ふもよらぬ中あて
子をりそ 是成人障子講を可望
 仕入る一箱五親の敵討する可
 をうらふ事教しやられんほふ
 御前あていづくや返りやと申して
子何乃若しや候へば
 何れに
 候へば

候へば今れ候へば
 御徳ひ久ク 夫ハをシひカいコ
 乃内ノ中ノ様諸鳥ノすク志ヲ出ス
 鳥ハいハさレ虎ヲ害スるカ所ニ
子家ノ女子河津乃三郎ノ子ノ一百
 箱五親ノ人者有キ親ノ
子五ノ乃ハ父ヲとシてシ

付きつゝ院下年より日と重祿。七の
 五月はゆりうらむときあり。心も
 父乃敵をうごかすやと思。乃父
 知るるも。言ふ義よ。あはゆきウラある
 時おとくいを持佛堂よ。あかて
 兄乃一万香を薰。記を伝。下
 されを芽れ箱王の年。をうつく

とまのりて。いつに兄をせ。お右せ。中き
 乃名をとも。我敵。二首と。すなり。叙を
 ひりさき。繩を。そら。神木を。あ。う。も。て
 だ。を。終。ふ。う。あ。く。り。れ。の。き。ア。の。わ。り
 て。ゆ。首。を。打。落。さ。む。と。す。せ。の。兄。乃
 一。万。是。を。ゆ。て。お。ま。い。の。き。あ。わ。い。の。成
 り。を。佛。を。ハ。不。動。と。す。か。ん。ん。さ。ん。及

息^フて^フく^フ世^フ久^フ。又亭^フ主^フハ^フ行^フ
 く^フ能^フハ^フ知^フク^フ 柳^フ子^フ舞^フを^フ出^フ
 可^フ望^フ久^フ 惹^フ面^フ白^フけ^フを^フ中^フ相^フ取^フぬ
 い^フ不^フ亭^フ主^フ。是^フ成^フ形^フを^フ知^フ者^フけ^フ中^フ
 主^フハ^フ亭^フ主^フハ^フ柳^フ子^フ舞^フの^フ上^フ半^フ前^フに^フ
 中^フを^フ中^フに^フ指^フ舞^フ人^フ 是^フハ^フ
 柳^フ子^フ舞^フ者^フ乃^フ筋^フ筋^フを^フ中^フに^フ中^フに^フ

思^フひ^フも^フよ^フく^フぬ^フも^フさ^フく^フ び^フく^フい^フ
 舞^フて^フ見^フせ^フ久^フ 柳^フ子^フ舞^フの^フ上^フ半^フ前^フに^フ
 是^フハ^フ柳^フ子^フ舞^フ者^フ乃^フ筋^フ筋^フを^フ中^フに^フ中^フに^フ
 此^フ後^フ少^フく^フい^フめ^フの^フ中^フに^フ柳^フ子^フ舞^フの^フ上^フ半^フ前^フに^フ
 を^フ中^フに^フ舞^フて^フ来^フる^フ奴^フを^フ中^フに^フ舞^フて^フ人^フを^フ乃^フ
 同^フよ^フけ^フ柳^フ子^フ舞^フ者^フ乃^フ筋^フ筋^フを^フ中^フに^フ舞^フて^フ人^フを^フ乃^フ
 中^フに^フ舞^フて^フ人^フを^フ乃^フ筋^フ筋^フを^フ中^フに^フ舞^フて^フ人^フを^フ乃^フ

柳^フ子^フ舞^フ

右之本者觀世太夫章句
真本令版行畢

正徳六丙申歲添生

示来荏苒數十年ノ星霜ヲ経ルニ從ヒ
改正増補ヲ加ヘシモ印刷ニ附セサレハ之ヲ
世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ
以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十二年九月廿日出版
同十三年三月發兌

京都府平民

出版人 檜

常



上京第三十區二條通寺町西

丁子屋町三十五番地

